

4種関係各チーム並びに全審判員の皆様へ

審判部長 並木克之

競技規則に関する解釈修正及び2017/2018年競技規則の改正について（通達）

次のことについて、以前にお知らせした解釈が変更されたり、新たに改正されたりした事柄がありますので、通達します。（今年の改正点についての詳細は、後日、正式に通知します。）

各チーム関係者並びに審判員におかれましては、規則の解釈と適用に当たって、誤りの無いようお願いいたします。

1 「PK戦」におけるキッカーの不正なフェイントへの対応

このことについては、2013年4月30日付で通達しましたが、2016年の競技規則改正において、対応の方法が確認できましたので、次のように修正します。また、2017年の改正において、決定された部分も含めて次のような対応となります。

<修正部分>

キッカーが不正なフェイントをしてキックを行った場合（GKは何の違反も犯していない場合）、

ボールがゴールに入る入らないにかかわらず、

キッカーは警告される。

キックは無効となる。（入ったとしても得点にはならず、失敗したとみなす。）

***当然、キックのやり直しは行わない。**

*このキックの際に、GKがゴールラインを離れる違反が同時に起きた場合の対応は、次のようになります。（2017年改正点）

■ボールがゴールに入らなかった場合（GKがセーブした場合を含む）

→キッカーとGKの両者を警告し、キックのやり直しをする。

■ボールがゴールインした場合

→キッカーだけ警告する。キックは「無効（失敗）」とみなし、得点は認めない。

（試合中のPKの場合は、守備側チームがペナルティーマーク上から間接FKを行うことでプレー再開。）

2 キックオフ時の、相手ハーフ内への侵入についての対応

昨年、県内各地域で競技規則の改正についての伝達講習会を行った際に、並木がお伝えしたことが、その後のJFA審判委員長との確認、そして2017年競技規則改正で次のように解釈され運用されることが分かりました。（昨年の伝達講習会時にお話ししたことは、変更されましたので、今後は次のように適用してください。）

キックオフ時に、相手のハーフ内への侵入（進入）が認められるのはキッカーのみである。他の競技者については、一切認められない。（よって、次のように解釈されると思われます。）

*キッカーは、両足とも相手ハーフ内に入ってもよい。

*他の競技者については、片足が自陣のハーフ内に残っていたとしても、もう一方の足が相手陣内に入っていることは違反とみなす。

3 8人制サッカーにおける「PK戦」で退場者が出た場合の対応（最新情報）

退場者の補充は、正規の試合中（前半・後半）と同様に行うことができる。（行わなければならない。）

ただし、補充される競技者は、「既に1巡目のキックを終了している」ものとみなす。

以上となります。

疑問や不明な点がありましたら、並木までお問い合わせください。